

Lib.

ISSN 0287-976X



京都産業大学図書館報 Vol. 46, no. 2 (oct. 1, 2019)

・特集 ・関連特集 書評大賞×むすびわざブックマラソン	・今をキャッチ。(キーワード13)
「トークセッション 読書の楽しみ」…………… 2-5	「人工知能ブームと社会科学の将来」山本和也…………… 12
小説家 三浦しをん氏×ライター 永江朗氏	・自著を語る (No.98)
・ビブリアたいむず (第11回)	『Simone de Beauvoir, la narration en question』
「聖地巡礼	伊ヶ崎 泰枝…………… 13
(源氏物語の舞台である宇治を訪ねて)」…………… 6	・図書館と私 (第9回) 吉本拓矢…………… 14
「選書ツアー報告@丸善京都本店」…………… 7	・古本募金
・天皇陛下御即位 大嘗祭特集…………… 8-9	平成30年度 寄付結果報告 & 更なるお願い…………… 15
・情報の探し方 (No.34)	・図書館からのお知らせ…………… 16
「政府統計の総合窓口 e-Stat」…………… 10-11	



「とある秋の日の夕暮にうかぶ図書館」(4号館より)

特集

書評大賞 × むすびわざブックマラソン

トークセッション 読書の楽しみ

小説家 三浦 しをん × ライター 永江 朗



2019年6月24日(月)、『まほろ駅前多田便利軒』で第135回直木賞を受賞し、最近では『愛なき世界』で日本植物学会賞特別賞を、『ののほな通信』で島清恋愛文学賞と河合隼雄物語賞を受賞した小説家 三浦しをん氏と日本文芸家協会理事 永江朗氏による「書評大賞×むすびわざブックマラソントークセッション 読書の楽しみ」(主催:書評大賞×むすびわざブックマラソン事務局)が開催されました。

会場となった13号館13101教室には、およそ210名の来場者がつめかけ、熱気と笑いに包まれた和やかなイベントとなりました。ここでは、「書評大賞×むすびわざブックマラソントークセッション 読書の楽しみ」の様子をお伝えします。

■最近の話題、特に『ののほな通信』のダブル受賞について

トークセッションは三浦氏の『ののほな通信』が島清恋愛文学賞と河合隼雄物語賞をダブル受賞した話題から始まりました。『ののほな通信』は、二人の女性の間で過去から現代に続くまで、ずっと交わされる前半手紙、後半メール時々手紙ありという書簡体小説です。『ののほな通信』が片方は恋愛文学賞を、もう片方は河合隼雄という日本有数のユング派心理学者を記念する物語の賞を受賞したことについて、お二人の間で次のようなトークが交わされました。

永江氏:『ののほな通信』は女の子同士の恋愛話であると同時に、言葉と物語と記憶の話ですね。書簡体をもって過去の記憶を二人の間で共有する様子が評価されたのではないのでしょうか。

三浦氏:(『ののほな通信』を書簡体で表現したことについて、人は物語や記憶を)共有しつつも、実は自分の都合が良い様に改ざんしたり、相手に隠したりします。このことを従来の一人称により表現すると読者に対してフェアに提示できないので、書簡体にしました。手紙は相手に全部を書く訳ではない様に、書簡体にすることで秘密にすることと自分の心を打ち明けることの塩梅がうまくいくと考えました。

永江氏:『ののほな通信』を書くに当たって参考にした作品はありますか?

三浦氏:参考にした作品は無いです。書簡体小説は今までに、宮本輝さんの『錦繍』や連城三紀彦さん等に傑作がありますが、自分の書簡体小説を書く際に改めて読んでしまうと、こんな傑作があれば書かなくても良いのではないかなと思ってしまいますから。

■小説を書くために取り組んでいることについて

次に、トークセッションは事前に受け付けた質問に回答する形で進みました。その質問の内、「どの様に小説を書いているのでしょうか?」という質問について、三浦氏は箱根駅伝を題材とした小説『風が強く吹いている』の制作ノートの一部

をスクリーンに投影し、小説の書き方を紹介されました。制作ノートには、実際のある年の箱根駅伝のレースをベースとした小説を展開する上で必要となる架空のレース展開、登場人物概要、登場人物の関係性、ストーリープロット、レース中にどのような出来事が発生するのか、どの区間の駅伝走者は誰で、付き添うのは誰なのかといったことが詳細に記されていました。

また小説を書くにあたり必要となる取材について、『風が強く吹いている』に加えて、植物を研究する人たちを題材とした小説『愛なき世界』と辞書を作る人たちを題材とした小説『舟を編む』の取材について話されました。『風が強く吹いている』は箱根駅伝コースに行って取材しているが、年に1回のレースであるため、1回の取材では全部を取材しきれず、箱根駅伝ファンやご自身でレースを録画したビデオテープを補助資料とされたことや、『愛なき世界』は大学院で研究している方や先生方に相当取材したこと、『舟を編む』は『広辞苑』(岩波書店)の編集部と『日本国語大辞典』(小学館)の編集部を取材されたことを紹介されました。



※赤字(太字)の書名は本学図書館で所蔵しています。



を読むと、『愛なき世界』の意味が最後までわからなかったという感想があったことで残念な思いに駆られたエピソードは会場内の笑いを誘っていました。

■「読書の楽しみ」について

トークセッションの最後は本を読むこと、読書の楽しみがテーマのトークとなりました。

まず、最近読んだ本として、永江氏からは野本響子さんの『日本人は「やめる練習」がたりてない』、高村薫さんの『我が少女A』、横山秀夫さんの『ノースライト』等が紹介され、三浦氏からはブレイディみかさんの『ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー』やドストエフスキーの『罪と罰』等が紹介されました。中でも『日本人は「やめる練習」がたりてない』の永江氏による紹介で、日本人は物事をやめるのが下手で、子供の頃からやめる練習をしていないため、体や心を病む、一方、マレーシア人は仕事も学校もすぐやめてしまう、それはマレーシア人が子供の頃から色々なことに取り組む中で自分に合ったものを選び取る訓練の一環としてやめることを社会が受容しているという説明は興味深い内容でした。

続いて、事前に寄せられた質問より「本を読むことに意味がありますか？なぜ本を読むことだけが推奨されて、なぜスポーツや音楽は推奨されないのでしょうか？なぜやりたいことだけをやらせてくれないのでしょうか？」という質問に、お二人の間で次のようなトークが交わされ、トークセッションは終了を迎えました。

三浦氏：私も確かにそう思います。

永江氏：学生の読書時間0分が5割という新聞記事がセンセーショナルに報道されたけど、高名な読書家でも小説を読む才能は無いという人もいます。

三浦氏：読書の慣れ・不慣れ、向き・不向きはありますね。それに学生の楽器を演奏していない時間0分が5割とかは話題にならないのでしょうか？読書をしたい人が読書をすれば良いと思います。

永江氏：読書の効用は確かにあると思います。抽象的に思考するトレーニングや自分とは違う考えを知るといった効用はありますよね。

三浦氏：想像するきっかけにもなりますね。あと言語能力を訓練することも大切で、考えたり感じたりすることや、自分の感情を把握することに言語を用いますよね。演奏する音楽に思いをのせることも、自分の中に言語が無ければうまくいかないでしょうし。本に限らず、音楽や映画等、ご自身に合った創作物を通して世界を広げていってください。

三浦先生と永江先生、トークセッションをありがとうございました。先生方のこれからのご活躍を、皆様も応援してください！！

しかし、津波によって1つの町が壊滅状態になる様を扱った『光』は暗い内容ということもあり、取材は行われていないとのことでした。

その他には、タイトルの付け方、装丁の決め方に関する質問や、小説の書き始めにあたる冒頭への力の入れ方、小説を書く順番や書き始めた時点で結論が見えているかどうかの質問があり、三浦氏のデビュー作にあたる『格闘する者に〇』から『ののはな通信』に至る作品を例に回答されました。中でもタイトルの付け方について、『まほろ駅前多田便利軒』の様にまほろ駅の駅前で多田さんが便利屋をやっているからそのまま名付けたタイトルや、『風が強く吹いている』の様に作品を象徴する言葉を名付けたタイトルがある中、『愛なき世界』は内容を読んでなるほどと思えるタイトルを付けたところ、インターネット上で作品感想



関連特集

書評大賞 × むすびわざブックマラソン

トークセッション 読書の楽しみ

小説家 三浦しをん × ライター 永江 朗

トークセッションで
取り上げられ、本学
図書館で所蔵している
図書をご紹介します。
します。



『風が強く吹いている』

三浦しをん著，新潮社，2009
(913.6||MIU 2階・文庫)

箱根駅伝の舞台裏まで
細かく描写されています！

2006年、直木賞受賞後第一作目の作品です。無名の大学の個性豊かで魅力的なメンバーが、箱根駅伝を目指して葛藤や衝突を繰り返しながら、チームとして団結していく感動スポーツ小説です。2007年には漫画化およびラジオドラマ化、2009年に舞台化、および実写映画化、2018年にはTVアニメも公開されました。トークセッションの中で三浦先生が緻密な制作ノートを紹介してくださいました。

読み終えた後に考えると
わかるタイトルの意味！？

『愛なき世界』

三浦しをん著，中央公論新社，2018
(913.6||MIU 貴重書庫 *館内閲覧のみ)

2019年、小説家としては初めてとなる日本植物学会賞特別賞受賞作品です。主人公の藤丸陽太(洋食屋見習い)はT大大学院研究室で植物学研究者をめざす本村紗英に恋をした。しかし本村は恋愛そっちのけで植物のシロイヌナズナの研究に没頭していた。藤丸の恋の行方やいかに…。

三浦先生は取材中に「それが『役立つから』ではなく『知りたくてやっている』、好きだから…」という言葉にハッとされたそうです。「理系の研究も音楽や小説とどこか通じるものがある、人間やこの世界がどういうものかを追い求める点では同じなんだな、って。」と語られました。



『まほろ駅前多田便利軒』

三浦しをん著，文芸春秋，2009
(913.6||MIU 2階・文庫)

「まほろシリーズ」(番外
地)，(狂騒曲)へと
続きます

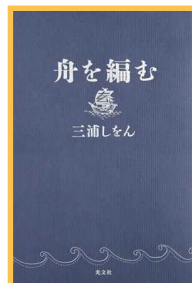
2006年直木賞受賞作品です。便利屋の経営者多田啓介と同級生の行天春彦が、様々な依頼に悪戦苦闘しながら心を通わせていくストーリー。2011年には映画化されました。

「ことば」という海を渡る
辞書は「舟」

『舟を編む』

三浦しをん著，光文社，2011
(913.6||MIU 2階)

2012年本屋大賞受賞作品です。辞書ができるまでのあらゆる困難が読み手にも伝わってきます。出版業界からの評価も高く、2013年には映画化されました。



今回三浦先生と絶妙なトークを繰り広げていただきました永江先生の著書をご紹介します。

『そうだ、京都に住もう。』

永江朗著，小学館，2015
(521.86||NAG 地下1階)

実際に暮らしてみたら
わかった京都の
奥深さ



夫婦の夢を実現するために
始まった家探し。そして理想の
快適な暮らしを手に入れるまでの
紆余曲折の14か月間が描かれて
います。

「ふだん使いの京の名店リスト
79」も付いていて、ガイドブック
としても最適な京都本です。

『本を読むということ：
自分が変わる読書術』

永江朗著，河出書房新社，2015
(019||NAG 2階・文庫)

肩の力を抜いて読書
してみませんか？



「人間にはひとりになる時間が必要だ。」「でも、ひとりでのいるのはむずかしいし、ひとりで考えるのはもっとむずかしい。」
本の世界を知り尽くした永江先生ならではの、本を味方につけ、上手く付き合っていく方法が丁寧に書かれたおすすめの1冊です。

トーク中の“20代に読んでおけばよかった本”紹介！



数年前に読んだらやっぱり面白かった
(三浦先生)



『万葉集』31音の言葉の背景には色々な過去の和歌が引用されており、味わい深い
(永江先生)

『罪と罰』上，下巻

ドストエフスキー著；工藤精一郎訳，新潮社，1987
(983||DOS||1-2 地下1階)

1866年に雑誌『ロシア報知』に連載され、『白痴』『悪霊』『未成年』『カラマーゾフの兄弟』と並ぶ、後期五大長編小説で最初に出された作品です。世界文学史に残る、言わずと知れた名作で、ドフトエフスキーの代表作です。

『口訳万葉集』上，中，下

折口信夫著，岩波書店，2017
(911.12||ORI||1-3 2階・文庫)

日本最古の歌集『万葉集』は、「令和」の元号の典故として話題となりました。数多く出版されている『万葉集』の中でも、折口信夫が初めて口述による現代語訳を成し遂げた本書を読んで、和歌の世界に浸ってみてはいかがでしょうか。

トーク中で紹介された最近読んだお薦めの本を紹介！



『ぼくはイエローでホワイトで、
ちょっとブルー』
ブレイディみかこ著，新潮社，2019
(376.333||BRA 3階)

イギリスの複雑な階級制度を感じる！
(三浦先生)



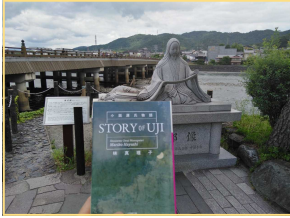
『日本人は「やめる練習」がたりてない』
野本 響子著，集英社，2019
(361.42||NOM 3階)

マレーシア人の独特の考え方、面白い！
(永江先生)

ビブリアたいむず (第11回)

図書館サポートチーム「ビブリア」からの情報発信ページです！

聖地巡礼 (源氏物語の舞台である宇治を訪ねて)



手前に紫式部像、奥には宇治川にかかる宇治橋が見えます。手には林真理子著『小説源氏物語』を持っています。

▶ 林真理子著『STORY OF UJI : 小説源氏物語』 (913.6||HAY 2階・文庫)

7月7日、七夕の日には私たちは宇治に行きました。誰もが知る「源氏物語」の聖地巡礼のためです。皆さんもご存じだと思いますが、源氏物語は平安時代に成立し、日本文学の礎となった作品であり、今もなお多くの人々に親しまれています。今回はその源氏物語の中でも宇治十帖(うじじゅうじょう)の舞台となった宇治にスポットを当ててみました。

京都市から宇治市までは電車で約30分で行くことができます。しかし京都市内とは雰囲気がガラッと変わり、緑豊かかつ歴史ある建物、そして雄大な宇治川がそばを流れています。到着した我々は早速、最初の目的地である宇治橋に向かいました。

宇治橋には『源氏物語』の作者である紫式部の銅像があり、源氏物語ゆかりの地であるということを感じることができます。宇治橋は「瀬田の唐橋」「山崎橋」とともに日本三古橋の一つに数えられる、非常に歴史ある橋です。伝承によれば646年に架けられたとあるので、「紫式部もこの橋を渡ったのかな」などとそれっぽいことを思いながら宇治橋を渡りました。

宇治橋を渡った我々は次に源氏物語ミュージアムに向かいました。源氏物語ミュージアムとはその名の通り、源氏物語に関する資料の収集を行う宇治市が運営する公立博物館です。2008年にリニューアルされ、外観と内装ともに非常に綺麗でした。源氏物語の世界を詳しく、また分かりやすく紹介しています。正直、源氏物語についてあまり詳しく知らないという方でも十分に楽しむことができますと思います。

展示物としては実寸大の牛車や、『源氏物語』の主人公である光源氏が紫の君(後、紫の上)を発見し、「垣間見る」シーンを体感できるギミックなどがあります。この「垣間見る」展示物は、今回聖地巡礼に同行して下さった図書館職員の鈴木さんが大変喜ばれていました。展示物以外には特別企画展として『GENJI FANTASY ネコが光源氏に恋をした』というアニメーションがありました。内容は、現代の女子高生が平安時代にタイムスリップし、彼女が体感した紫式部の日常や源氏物語成立の背景などを描いたファンタジーストーリーとなっています。アニメーションということで大人から子供まで楽しみ、また前野智昭さんや井上喜久子さんなど豪華な声優陣が出演されています(9月1日までの企画展示)。



中君(なかのきみ)と大君(おおいぎみ)の屋敷があったとされる場所を訪れるビブリアメンバー

そして最後に朝霧橋を渡りました。朝霧橋には、宇治川のほとりで逢瀬を重ねた勾宮(おひみや)と浮舟をイメージして造られたモニュメントがあります。源氏物語ファンにはたまらないのではないでしょうか。

こうして私たちの『源氏物語』の聖地巡礼は終わりました。京の喧噪から離れ、自然豊かな宇治で休暇を過ごす。紫式部も過ごしたこの宇治で歴史を感じるのも「趣深い」のではないでしょうか。



朝霧橋の勾宮の銅像を囲むビブリア一行

ビブリア新メンバー募集中！

ビブリアは図書館で活動している学生団体です。具体的には、おすすめ本のPOP作成や図書館に関して企画を立案する団体です。本好きにはたまらない！他の活動やサークルとの掛け持ちも大丈夫なので、興味のある人はぜひ一度見学に来てください。お待ちしております。

活動日：毎週火・木曜日
時 間：12:30～(昼休み中心)
連絡先：lib-sensho@star.kyoto-su.ac.jp
活動場所等詳細はメールでお尋ねください。

(学生証番号、氏名、連絡先を明記し、メールでご連絡ください)



選書ツアー報告@丸善京都本店

私たちビブリアは6月30日に丸善京都本店にて、ビブリアメンバー21名で選書ツアーを行いました。選書した本は9月末頃から図書館で展示していますので、ぜひ手に取って見てください。

■選書ツアーとは



選書ツアーとは私たちビブリアが学生の要望に応えるために毎年行っている本を選ぶイベントのことです。

まず大学内にてアンケートで学生の望んでいる本の要望を把握します。それを元にして選書を行います。2時間と少しという短い時間の中で大学図書館に必要な本を考え、選んでいきます。今回は180点の本を選び、134点の本が大学図書館で購入されることになりました。例年は小説関連の本を多く選んでしまうのですが、今年は専門書関連の本を多く選ぶことを念頭に置き、多くの専門書を選ぶことができ、より良い選書活動ができたのではないかと考えます。

事前アンケートに協力いただいた皆さま、大学図書館職員の皆さま、そして通常の業務の中、お邪魔させていただいた丸善京都本店の皆さま、誠にありがとうございました。この場を借りて御礼を申し上げます。



開始直後、熱心に本を選ぶビブリアメンバー

■当日の選書ツアーを通して



選書ツアーを行うにあたって、事前アンケートやその統計、メンバー内での目的の統一などと準備することは多々ありました。準備をしていく中で多くの人の助けがあってこそ、このツアーを行うことができることを再確認しました。当日はメンバーの協力もあり、大所帯ではありましたが大きな問題も起こることなく、スムーズに選書が行えました。事前アンケートでの受け入れて欲しい本の要望とビブリアメンバーが選びたい本や、大学図書館に必要だと思う本を選んでいき、去年よりも多くの本を選び大学図書館に受け入れてもらうことができました。



ツアー中盤、選書そっちのけで思わず本に見入ってしまうビブリアメンバー

■選書ツアーを終えての感想

丸善京都本店に行ったのは今回で2度目なのですが、やはり面積の広さや品揃えの多さには驚かされます。また専門書から小説、洋書、雑誌まで豊富に取り揃えていて、思わず普段読まないような本にも手を伸ばしてしまいました。そんな膨大な数の本の中から京都産業大学で受け入れてもらう本を選ぶというのは難しい反面、とても楽しい作業でした。私も何冊か選びましたが、それらが無事に選考を通り学生の皆さんに読んでもらえたら嬉しいです。

今度は選書係としてではなく、個人的にも利用したい素敵なお店さんでした。

最後に、丸善京都本店の皆さま、ありがとうございました。(外国語学部2年次生 S.K)



残り時間わずか！選書漏れがないかどうか最終チェックを行うビブリアメンバー

6月30日(日)はあいにくの雨で、とてもジメジメしていましたが、お店の中はとても涼しく快適でした。朝11時の開店と同時に、選書ツアーもスタートしましたが、開店直後にも関わらず店内にはたくさんのお客さんがいて驚きました。去年よりも本を選ぶ時間が少し短かったのですが、それでも限られた時間の中で多くの本を選びました。他のメンバーがどのような本を好むのかも知ることができてとても面白かったです。もちろん、事前にアンケートで蔵書にして欲しいと願いのあった本もツアーで選びました。図書館を利用される方には、今回選書で選ばれた本、これまでに図書館にあった本や映画との出会いを通して、そのなかに自分にとって真実と思えるようなものを感じ取っていただければ幸いです。ありがとうございました。(経済学部2年次生 N.T)

天皇陛下御即位 大嘗祭特集

天皇陛下が5月1日に御即位されたことに伴い、即位関連の儀式が10月、11月に行われ、11月下旬には三重県、奈良県、京都府へお越しになります。そこで、儀式の内容を簡単に紹介するとともに、本学が所蔵する関連資料を紹介します。

10月22日 「即位礼正殿の儀」,「祝賀御列の儀」(祝賀パレード)

即位礼正殿の儀は、天皇が即位を公に宣明されるとともに、その即位を国内外の代表が祝う儀式。

陛下は「黄櫨染御袍(こうろぜんのごほう)」という天皇専用装束に身を包み、宮殿「松の間」に設けられた高御座(たかみくら)で即位を宣言する。

参列者は2500人の予定で、外国元首も出席する見通し。

祝賀御列の儀は、即位礼正殿の儀の終了後、広く国民に即位を披露され、祝福を受けられる儀式で、宮殿からお住いのある赤坂御用地までの道のりを車でパレードする。

車は、新調されたトヨタ「センチュリー」のオープンカーを使用。平成のパレードでは、当時の海部俊樹首相も車列に参列し、沿道に約11万7000人が集まった。

11月14日・15日「大嘗祭(だいじょうさい)」

天皇が即位の後、木造の「悠紀殿(ゆきでん)」「主基殿(すきでん)」「廻立殿(かいりゅうでん)」などから成る「大嘗宮(だいじょうきゅう)」において、その年に採れた新穀を神々に供えられ、自らも召し上がり、五穀豊穰(ごこくほうじょう)と国家国民の安寧を祈念される一代一度の皇位継承儀式。

11月16日・18日「大饗の儀」

大嘗宮の儀の後、天皇が参列者に白酒(しろき)・黒酒(くろき)・酒肴を賜り、ともに召し上がる儀式。

出典：本学契約データベース JapanKnowledge Lib.、聞蔵II ビジュアルの情報より
(お知らせ)

本学図書館では、天皇陛下の即位・改元に関するイベント Lib.トークとして、「近世天皇の即位儀礼と本学図書館の貴重書」(講師：文化学部 若松正志教授)を開催いたします。

11月21日(木) 17:00～(開場16:30) 於：ナレッジコモンズ(図書館1階)
皆様のご参加をお待ちしております。

本学が所蔵する関連資料をご紹介します。



『大嘗祭と古代の祭祀』

岡田 莊司著 吉川弘文館 2019 (210.091||OKA 2階)

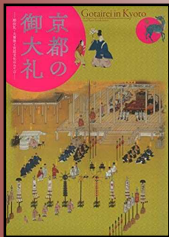
天皇一代一度の重要儀式である「大嘗祭」のルーツをたどる論考。自然景観と関連する磐座(いわくら)祭祀・聖水信仰を起源にもつ神社祭祀と、大王・豪族の居館(きょかん)内神殿から発す祖神(そしん)祭祀の二つの系統をもつ祭祀起源より、大嘗祭を祖神祭祀に源流を定め論考を重ねる。平成の大嘗祭で論争を起した学説を収録した本格的な大嘗祭起源・本義の研究資料。



『近代大禮関係の基本史料集成』

所功著 国書刊行会 2018 (210.091||TOK 2階)

日本の皇室では、天皇が皇位を継承するたびに大禮と称する即位儀式と大嘗祭を行ってこられた。それは近代に入ってからどうなったのか。明治・大正・昭和の三時代区分にあたる近代的な大禮の持つ政治史的・文化的な意義解明に資する基本史料を集大成。



『京都の御大禮：即位礼・大嘗祭と宮廷文化のみやび』

「京都の御大禮即位礼・大嘗祭と宮廷文化のみやび」展実行委員会編集・発行
2018 (210.091||KYO 2階・京都関係)

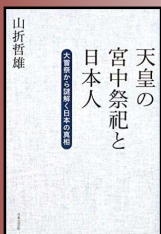
明治150年・平成30年記念「京都の御大禮－即位礼・大嘗祭と宮廷文化のみやび」(2018年9月1日～10月8日 細見美術館ほか)の展覧会図録。本学図書館からは、貴重書の「桜町天皇御即位式図」、「後桜町天皇御即位式図」、「後桜町天皇御即位図巻」を提供。



『近代の御大禮と宮廷文化：明治の即位礼と大嘗祭を中心に』

所功監修 京都宮廷文化研究所 2017 (210.091||TOK 2階・京都関係)

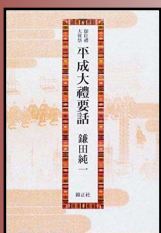
近代の御大禮と宮廷文化実行委員会主催の明治改元150年記念特別展覧会(2017年10月21日～2018年1月14日 明治神宮文化館)の図録。



『天皇の宮中祭祀と日本人：大嘗祭から謎解く日本の真相』

山折哲雄著 日本文芸社 2010 (210.091||YAM 2階)

宗教学・思想史の第一人者である著者が、自身の天皇制に関する論文やエッセイを再編集し、更に多くの参考文献から天皇制を大嘗祭などの宮中祭祀の観点から切り込んでいく。日本だけではなく、他国や過去の王位継承についても解説する。



『平成大禮要話：即位禮大嘗祭』

鎌田純一著 錦正社 2003 (210.091||KAM 2階)

『日本書紀』は、誰もが一度ならず何度も耳にしたことがある歴史史料。著者は大嘗祭に関する最初の記述は、その『日本書紀』にあると言う。『日本書紀』から始まり各史料をひもとき、代々経験を元に行われてきたと考えられる皇位継承の各儀式をこと細かに記している。

情報の探し方 No.34 「政府統計の総合窓口 e-Stat」

現在利用できる有償・無償のデータベースなど、学修・研究をする上で欠かすことのできない検索ツールの利用方法などを紹介するコーナーです。

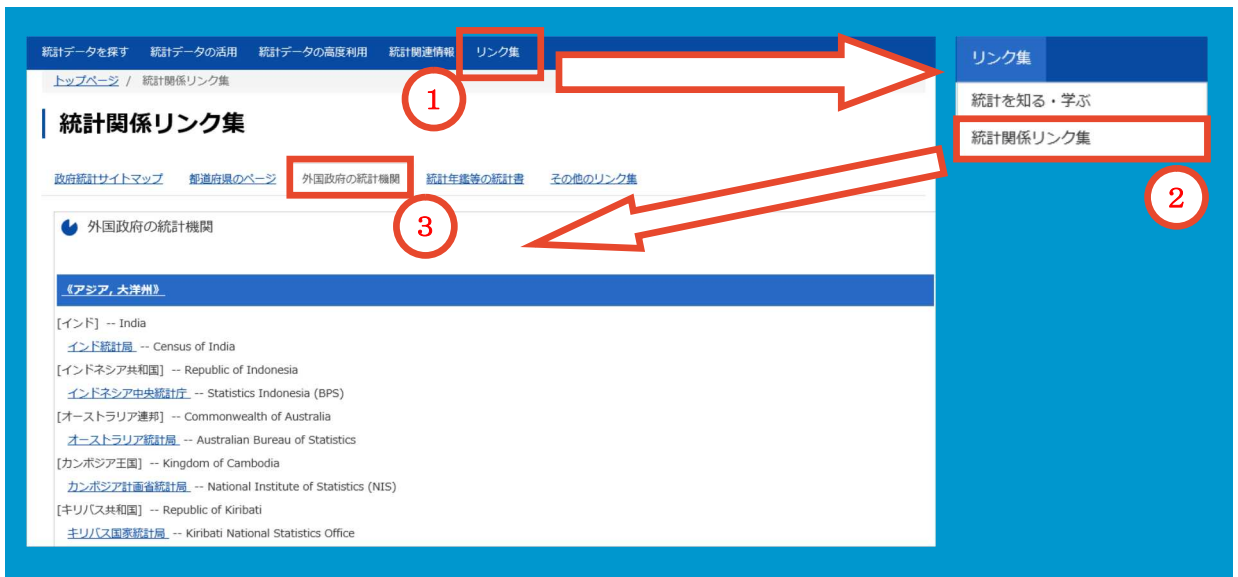
政府統計の総合窓口 e-Stat とは？

e-Statは、総務省統計局が整備し独立行政法人統計センターが運用管理する、日本の統計が閲覧できる政府統計ポータルサイトです。各府省等が実施している統計調査で公表された統計データ、公表予定、新着情報、調査票項目情報などの各種情報をワンストップで利用することができます（原則無償利用）。

アクセスするには検索エンジンで「e-Stat」を検索します。キーワード検索で必要な統計データファイルを探することができるほか、次の各種メニューを用いて統計データを探す・活用することができます。

<p>すべて 政府統計一覧の中から探します</p>	「すべて」では、e-Statで利用できるすべての政府統計一覧が表示されます。ファセット機能やキーワード検索機能も備わっており、表示される統計データ一覧を絞り込むことができます。
<p>分野 17の統計分野から探します</p>	「分野」では、「国土・気象」「人口・世帯」「労働・賃金」「商業・サービス業」「エネルギー・水」「運輸・観光」「社会保障・衛生」等、17の分野から統計データを探することができます。
<p>組織 統計を作成した府省等から探します</p>	「組織」では、「人事院」「内閣府」「総務省」「法務省」「外務省」「文部科学省」「厚生労働省」「経済産業省」等、14府省と傘下組織から統計データを探することができます。
<p>トレンド 主要指標を、グラフ・時系列で表示 (統計ダッシュボード)</p>	「トレンド」では、「統計Dashboard」サイトへ移り、グラフ化された「人口」「出生・死亡」「失業率と求人倍率」等の統計データを見たり、地域統計データのレーダーチャート作成・ランキング表示ができます。これらに使用される統計データについてはダウンロードできます。
<p>地図 地図上に統計データを表示(統計GIS)</p>	「地図」の「地図で見る統計(jSTAT MAP)」では指定した地域の地図上に、e-Statが扱う主要統計データの結果を表示させることができます。地図上に色つけて結果を表示させることができ、直感的な地域間比較が可能となります。
<p>地域 都道府県、市区町村の主要データを表示</p>	「地域」では、「統計でみる都道府県・市区町村のすがた」で整備された各種統計データ(人口・世帯、自然環境、経済基盤等)から、地域・項目を抽出した統計表表示、グラフ表示、ダウンロード等を行うことができます。

日本の統計データ以外に外国の統計データを利用するには？



e-Statは日本の政府統計を探すことに特化されたポータルサイトですので、外国統計データは収録されていません。このため、外国統計データを公表しているWebサイトへアクセスすることが必要ですが、なかなか外国統計サイトを自力で探すのは難しいかもしれません。

そこで、e-Statのリンクメニューが、外国統計データを探す際の一助となります。

上記、画面のとおり、e-Stat上部メニューの①「リンク集」をクリックすると、プルダウンメニューが表示されます。②のとおりプルダウンメニューより「統計関係リンク集」をクリックすると、「政府統計サイトマップ」「都道府県のページ」「外国政府の統計機関」「統計年鑑等の統計書」「その他のリンク集」からなる「統計関係リンク集」が表示されます。ここで③の「外国政府の統計機関」をクリックすると、世界各地ごとに、各国政府統計サイトのリンクが表示され、このリンクを辿ることで、外国（政府）の統計データを利用することができます。

なお、「政府統計サイトマップ」には各府省庁の統計サイト・白書サイトのリンクが、「都道府県のページ」には各都道府県の統計サイトのリンクが表示されます。e-Statで取得できない情報（例：白書や各地域特有の調査データ）は、各府省庁や都道府県のサイトを確認することが必要になります。

e-Statを用いて利用することができない統計データはどの様にすれば利用できるか？

e-Statで利用することができない統計データ等については、インターネットを介した場合、図書館で契約しているデータベースや無償公開されている統計サイト・データ等の利用が挙げられます。

他方で、インターネットを介さない場合、本学図書館2階・3階の参考図書コーナー等で紙媒体資料として統計データ等を利用できるか確認してください。

「蔵書検索システムKSU-Cat」を用いて統計に関する資料の所在を検索した結果、「運用」の項目に「R：参考図書」と表示された場合は、参考図書コーナーにあります。参考図書は貸出できないので、図書館内のコピー機で複写して利用してください。



キーワード 13 人工知能ブームと社会科学の将来 (解説: 山本 和也)

最近、理学的社会科学と工学的社会科学ということをおもうことがある。理学(ここでは自然科学)が自然の摂理を探求するのに対して、工学は自然に介入し、それを人間にとって望ましく改造しようとする。社会科学でも似た区別ができる。政治経済社会現象がどのように動いているか、その探求は、社会そのもののしくみを解明しようとする点で理学的である。これに対して、例えば政策研究は、社会に介入し、社会をより望ましく変える方法を探求する点で工学的である。現在の社会科学の主流は理学的である。歴史という過去の社会を描く、ある国の政治状況の観察結果を分析する、などである。また、増税の経済成長への影響を検証するといったことは介入された社会の描写なので、政策研究でさえしばしば理学的である。

歴史学はともかく、政治学や経済学など、現代社会の改善を直接の目標とする諸分野は本来工学的であるべきと筆者は考えている。そんな中、元々役立たずの印象しかなかった人工知能(AI)の再ブーム、特にそれと並行する自然言語処理分野の飛躍を丹念に見ていると、工学的社会科学がいよいよ主流になりうるのではないかと、さらには歴史学もランケ以来の方法的躍進を遂げるのではないかと感じてしまう。多くの方々はこんな妄想をお笑いであろうが、成り行きを見つめていきたい。

(やまもと かずや 国際関係学部教員)

もっと知りたいあなたに。 ※山本先生ご推薦!



『歴史主義の貧困』

カール・ポパー著(岩坂彰訳), 日経BP社, 2013 (201.1||POP 2階)

「社会(歴史)」とはそもそもどういうものなのかをまず知りたい。ポパーの歴史法則主義批判はこの点で本質を捉えている。本書は冗長であり、数多の批判も難しい理屈で対抗するが、すべては本書の単純なエッセンスにつける。これで「歴史の教訓」の正しい使い方もわかってくる。ポパー自身は社会過程を「科学する」ことは原理的にできないと言いたかったようだが、これは過去と未来に因果がないということではない。この点で、私たちは彼を超えていく必要がある。

『科学とモデル: シミュレーションの哲学入門』

マイケル・ワイスバーグ著(松王浩政訳), 名古屋大学出版会, 2017 (401||WEI 3階)



社会を知れば、次はその分析である。本書は、モデル分析とはどういうものかを考察した著作。「具象モデル」「数理モデル」「数値計算モデル」の分類のもと、主に自然現象を論じているが、議論は社会にも当てはまる。歴史学であれば具象モデルである。数理モデルと数値計算モデルの関係をこの辺りまで説明できているこの手の書籍はあまりない。個人的には、モデリングのメタ議論はさほど生産的とは考えていないが、一度は触れておきたいところ。



『シミュレーションの思想』

廣瀬通孝, 小木哲朗, 田村善昭著, 東京大学出版会, 2002 (007.1||HIR 2階)

流体力学のモデリングや大規模シミュレーションを論じた本書の内容は「理系」だが、モデリングの具体例を詳細に説く議論には、メタ論にはないリアリティがある。実際にモデル作成を実践するには、これくらいの議論を学ぶ必要がある。上記2冊の読了後であれば、本書の議論が社会分析にも当てはまることがわかるはず。

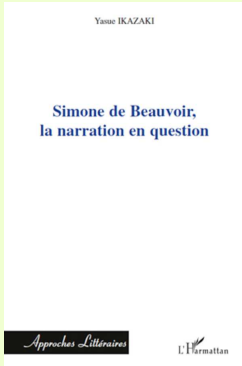
『人工知能は人間を超えるか: ディープラーニングの先にあるもの』

松尾豊著, KADOKAWA, 2015 (007.13||MAT 地下1階, 2階・学部の学び/情報理工)



最後は少し柔らかめのもの。20世紀後半以降のAI研究の歴史をざっと振り返る書物であり、学術的関心のある初学者にとっては好著である。実は「キワモノ」かもしれない第3次AIブーム名題役者ディープラーニングも、ある程度相対化して試みる事ができる。私見では、第2次ブームの関心となった対象が、工学的社会科学によって今後再び関心を集めると期待するが、果たしてどうか。

自著を語る (No. 98)



Yasue Ikazaki
(伊ヶ崎 泰枝) 著
『Simone de Beauvoir,
la narration en question』
L'Harmattan, 2011



(950.278)|BEA 2階・教員文庫ほか)

学生の皆さんが生まれた頃、私はフランス政府給費留学生として北フランスのリール第3大学に留学していました。シモーヌ・ド・ボーヴォワールについての博士論文を書くためです。フランス政府給費留学生と言っても、フランス政府の懐事情が厳しいのか、まともに奨学金が出たのは最初の1年だけで、あとの数年は奨学金留学生としての身分だけでした。ですから、2年目以降は親からの援助や自分の貯金を切り崩す生活となりました。お金のない、未来の見えない、暗い留学生活でした。フランスではコインランドリーのお金を惜しんでジーパンすら手洗いしていました。少しアルバイトをすればいいと思われるかもしれませんが、アルバイトをすればするほど論文完成は遠のき、いつまでたってもこの不安と焦燥感に満ちた生活から抜け出せません。このためひたすら寮と大学、図書館の間を往復していました。遊ぶお金を持っていなかったことと異性にモテなかったことが幸いしたのか(!?), 自分の力には余ると思っていた博士論文を書き上げることができました。

長々とこんな思い出を述べたのは、この本が博士論文 'Les procédés narratifs dans les œuvres de Simone de Beauvoir' を基にしているからです。出版社の意向により、研究論文特有の言い回しを減らし、引用を短くして、一般の読者向けに書き直しました。

従来のボーヴォワール研究は、フェミニズムの観点から、あるいは回想録作家として扱われることが多く、この作家の作品に内在する本質的な価値がこれまで十分に論じられてきたとは言えません。ボーヴォワールの死後出版された日記や書簡、未発表の作品等

に関する最新の研究成果を踏まえながら、語りの分析を手がかりとする読み直しを試みました。主としてジェラルド・ジュネットやレオ・シュピッツァー、フィリップ・ルジュンヌの理論と方法を用いて作品を分析しました。小説作品では、作中人物の意識に内的に焦点化された三人称の語りと一人称の語りとの交替に着目しました。回想録作品では、一人称複数「私たち」の語りの果たす役割を扱いました。また、旅行体験の記述における一人称の語りの諸相の比較、ボーヴォワールの強迫観念である「死」をめぐる語り、サルトルの伝記作家としての側面、回想録の中の登場人物の記述に関する検閲作業や演出、さらに女性の意識に焦点化された語りと男性の意識に焦点化された語りの違いなどを論じました。結論として、ボーヴォワールの自己投入の産物であるこれらの「私」、「私たち」、「彼」、「彼女」の語りの分析から、この作家の作品の豊かさ、深さと現代性を導き出すに至りました。

冒頭に私のつましい留学時代を語りましたが、研究者への道のりはスマートに格好よくは行きません。研究が好きでなければ続けるのは難しいです。大学院生や、大学院を目指す学生の皆さんが本書を手にとって頁をめくってくれると嬉しいです。

(いかざき やすえ 外国語学部教員)

図書館と私 9

利用者の図書館にまつわる
エッセイをご紹介します！

図書館アルバイト&図書館サポートチームビブリア

経済学部2年次生 吉本 拓矢 (よしもと たくや)



私は大学生になるまで読書や図書館とは無縁でした。それまで全く本を読むことがなく、図書館を利用したことがありませんでした。しかし、いまや毎日のように本を読み、図書館でアルバイトをしています。私と図書館と本との想いや考え、そして繋がりなどを伝えられることができれば幸いです。

私にとって本とは自身の成長を助けてくれるものだと考えています。自身の感性や創造性、考えを膨らませ、視野が広がる。ちょっとばかり大袈裟に思われるかもしれませんが、私は読書を始め、切々にそう感じています。まさか趣味として始めた読書が自身に影響し、自身の考えを変えることができるとは思っていませんでした。また同時に本の生み出す力を侮ってはいけなないと反省もし、もっと早いうちから本を読んでいたればと少し後悔もしました。そうして本を読み始め、私が置かれている環境にも変化がありました。それは図書館です。

図書館のアルバイトは大学の先輩の紹介を機に始め、私は大学にいる時間の大半を図書館で過ごすようになりました。最初は業務を覚えるのに必死で気が追いつきませんでした。次第に慣れてくると本と触れ合う時間について色々考えることが増えました。最近本が返却され、棚に戻す最中に、その中に気になる本を見つければ、後で自分も借りようと棚番号を覚えておくということをしています。また自分の読んだことのある本を見つけると、面白かったなと振り返り、その本を借りて読んだ人はどういう風に考えを深

めたのか気になったりします。これが結構楽しいです。このように図書館のアルバイトをしていると自分の好みの本だけではなく、新しい興味を持つことのできる本と偶発的に巡り合える、私にはありがたく良い経験だと感じています。

次に利用者として図書館について言い表すと、助かるの一言です。本好きになると、一番困るのがお財布事情です。本屋に行けば本を買ってしまい、なかなかお財布的に厳しい事情が続きます。しかし、図書館では普段は手が出ない高価な本まで無料で借りることができます。また蔵書検索システム「KSU-Cat」で確認するとわかりますが新刊が続々と図書館に入るのも、これまた大助かりです。本好きでお財布に困っている京産大生には共感していただけると私は思います。

最後にこの記事で私が一番伝えたいことがあります。それは読書をしている際にただ読むだけではなく、一度思考を巡らせ、新しい観点や気づきを探してみたいことです。なぜなら、私にとって本とは自身の成長を助けてくれるものだと上述しましたが、加えて自身の新しいきっかけ作りにも繋がると思います。実際に私は本を読むことで、この記事を執筆するきっかけが得られたように様々な機会に恵まれ、新しい選択肢が増え、自身のこれからを見つめ直すことができました。無理に本を買わずとも図書館に行けば、気軽に読むことができます。一度本と向き合ってみてください。面白い気づきがあるかもしれません。



京都産業大学 古本募金

学生用図書の実
に活用します!

平成30年度 寄付金額 77件 205,245円

おかげさまで1年目にあたる平成30年度は205,245円の寄付が集まりました。ご協力いただきありがとうございました。

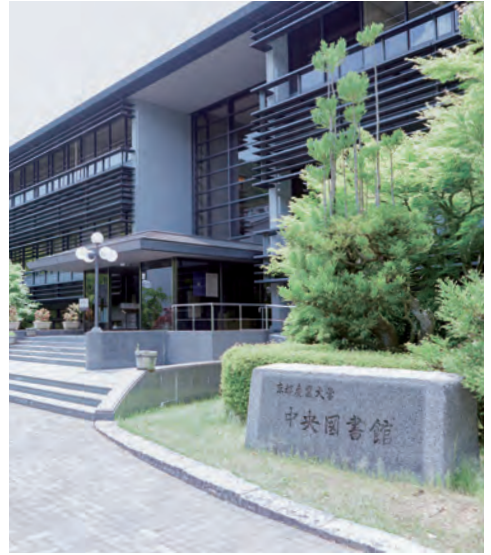
「京都産業大学 古本募金」は平成30年6月からスタートしました。古本募金とは、本、DVDなど、使い終わったものをリサイクル換金して大学へ寄付できる募金のシステムです。学生、教職員、保護者、卒業生等が不要になった個人所有の書籍等を、古本募金を運営する業者に送付することによって、その査定額に応じた金額がその業者から大学に送金されるものです。本学では「学生用図書充実のため」に大切に活用します。品物の送付から本学に寄付金が入金されるまでの流れは以下のとおりです。WEBまたは電話で業者に申込み後、宅配業者が自宅、研究室、事務室等の指定場所まで引き取りに来ます。



図書館設置の回収箱

なお、募金用の回収箱を図書館2階コピーコーナーに1か所設けています。回収箱から回収した古本については、匿名での寄付として扱います。

令和元年度も引き続き募金を受け付けています。



あなたも、ぜひ、お部屋に眠っている品物をお寄せください!!

古本募金の流れ



宅配業者が伝票をもって引き取りに伺います。

※2箱以上の場合、申込書の同梱は1箱のみで結構です。



きしゃぽんが査定・換金し、ご寄付いただいた方に査定額・点数を報告します。

※査定額にきしゃぽんからの協賛金100円を加算した金額が京都産業大学に寄付されます。



ご寄付いただいた方のお名前を添えて京都産業大学へ送金します。

回収方法

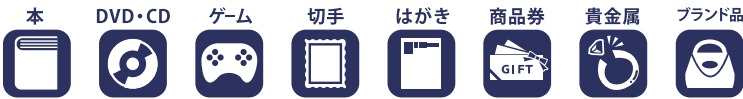
1 図書館内に回収ボックス設置中

使用済みの本を、そのまま回収ボックスへ入れてください。この場合、寄付申込書は必要ありません。

2 ご自宅まで取りに行きます

本などを箱に詰めて、下記記載のWEBまたは電話でお申込みの上、ご自宅にて集荷をお待ちください。

募金になるもの



※貴金属・ブランド品は壊れていても構いません



本の裏表紙、奥付等に

ISBNコード があるかご確認ください。

お出しただけでないもの

ISBNコードのない本、タバコ、カビ臭、著しい破損、汚れ、付属品が欠品しているもの、週刊誌

※ 京都産業大学の押印があるものは取扱い対象外です。

お申込み・お問い合わせ

WEBで申込む (受付) 24時間・365日

京都産業大学 古本募金

kishapon.com/kyoto-su/

電話で申込む (受付) 9時~18時・365日

0120-29-7000

オペレーターに団体ID **121** とお伝えください。

(運営協賛) 古本募金 きしゃぽん / 嵯峨野株式会社 〒358-0053 埼玉県入間市仏子 916 埼玉県公安委員会 古物商許可証 第431100028608号

(企画) 学校法人京都産業大学 〒603-8555 京都市北区上賀茂本山 TEL.075-705-1415 (経理部募金担当)

Information

寄贈一覧（教員文庫）

寄贈順（2019年3月5日～2019年7月29日）敬称略

◆図書館主催イベントのお知らせ

図書館では、図書館や本に関連する各種イベントを実施しています。読書に興味はあるけれども、始めるきっかけがない……。そんなあなたの背中を一押しします。

・Lib.トーク：ゲストを招いての講演会や対話型のイベントを企画しています。例年、数回の実施を予定しています。

<現在予定されている「Lib.トーク」>

■第1弾 ワークショップで知る、笑って学ぶ「SDGs（エスディーゼーズ）」

●開催日時：10月31日（木）17:00～18:30

●講師：生命科学部 佐藤賢一教授（NPO法人ハテナソン共創ラボ代表）

■第2弾 近世天皇の即位儀礼と本学図書館の貴重書

●開催日時：11月21日（木）17:00～18:30

●講師：文化学部 若松 正志教授

■第3弾 読書をするということ

●開催日時：12月12日（木）17:00～18:30

●講師：内田 樹先生（神戸女学院大学名誉教授）

会場はいずれも図書館1階ナレッジcommonsです。

皆様のご参加をお待ちしております！

※イベント開催までの間に一部内容を変更する場合がございます。

あらかじめご了承ください。

◆図書館展示企画

「書評大賞クロニクル-京都産業大学図書館を訪れた12人の作家たち-」

第15回京都産業大学図書館書評大賞の開催にあわせて、2019年7月から、「書評大賞クロニクル-京都産業大学図書館を訪れた12人の作家たち-」を実施しています。

<場所・展示内容>

1階カウンター：本学を訪れた作家たちの映像化された作品を紹介

1階展示ケース：館内閲覧資料及びパネルを中心に展示。作家たちのサイン色紙、サイン本や図書館Webサイト、過去の図書館報『Lib.』に掲載された図書館書評大賞講演会の様子などをパネル化して展示

2階 陶板 付近：作家たちの作品、講演会で紹介された資料のほか、文章作成に役立つような資料もあわせて展示。ここで展示している資料は館外貸出可能。

2019年10月29日までですので、ぜひ、展示で紹介している作家の方々の作品を手にとって読んでみてください。

◆図書館のレファレンスサービスを活用しましょう！！

図書館は、好きな本を借りるだけの施設ではありません。上手に使えば、レポート作成や就職活動など、皆さんにとって「知らない」「何とかしたい」ことを乗り切るための手助けになるはず。図書館では、その「お役立ち情報」の探し方、調べ方を手助けするサービスがあります。レファレンスサービスは学修・研究支援サービスの一環として、情報が見つからない時、探し方がわからない時、どの様にすれば情報を入手できるかを手助けするサービスです。レファレンスサービスを希望される方は、図書館2階メインカウンター向かって左の「レファレンスカウンター」にお越しください。

「こんな本はないか」「こんな記事が掲載されている新聞や雑誌はないか」など、様々な「探しゴト」の手助けをしております。皆さんも、ぜひご利用ください。

※各イベントなどの詳細は、図書館Webサイト、POST、各種掲示などで確認してください。

発行元：京都産業大学図書館 〒603-8555

野一色 直人（法学部）

『基礎から学べる租税法』（第2版）谷口勢津夫 [ほか]著. 弘文堂, 2019（執筆）

村上 忠喜（文化学部）

『京都中川の北山林業景観調査報告書』国立文化財機構奈良文化財研究所文化遺産部景観研究室編. 京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化財保護課, 2019（執筆）

ボンサピタックサンティ ピヤ

（現代社会学部）

『東アジアにおける宗教的シンクレティズムの社会学的研究：日本・中国・東南アジア』研究者代表橋本(関)泰子. 四国学院大学社会学部, 2018（執筆）

伊ヶ崎 泰枝（外国語学部）

『Simone de Beauvoir, la narration en question』Yasue Ikazaki. L'Harmattan, 2011

編集後記

山本：初めて『Lib.』の編集取りまとめをしました。苦勞して原稿を作成したページも多くあります。ぜひご覧ください。

鈴木：皆さんは映画は好きですか。

図書館には今回原作を紹介した映画も含めDVDもそろっています。ぜひご利用ください。

徳永：表紙の写真は、私が数年前に撮影したものです。ある秋の夕暮れに図書館が浮かんで見えたので思わず「カシャ」。

西村：今号から編集スタッフの一員となりました。お陰様で、映画化された三浦しん氏『舟を編む』（石井裕也監督）も楽しく鑑賞することができました。

小野：ご寄稿を快諾くださった皆様、ありがとうございました。おかげ様で充実した内容の『Lib.』が出来上がりました。

土肥：三浦氏×永江氏トークセッションは大盛況でした。今後このような機会がありましたらぜひ、足をお運びください。

（京都産業大学図書館 Lib.プロジェクト）

京都市北区上賀茂本山 電話 (075)705-1446